

【社会】 < 小学校 第5学年 >

1 結果のポイント

「わたしたちの生活と食料生産」について、食料品の安全性にかかわる農家の人々の工夫や努力についての理解をみる問題では正答率が80%を上回っている。

グラフから数値の変化を読み取り、その理由について自分の考えを記述する問題や、食料生産にかかわって現在問題として考えられることを判断する力をみる問題では正答率が50%を下回っている。

「読図」について、縮尺を活用して実際の距離を求める問題では正答率が70%を上回っている。

「わたしたちの生活と工業生産」について、「自動車工場」の作業の特徴や生産工程の様子についての理解をみる問題では正答率が85%を上回っている。また、海外での生産が増えている理由について考える問題では正答率が75%を上回っている。

「わたしたちの生活と情報」について、各種メディアの特徴を資料から読み取る問題や、情報を受ける立場として大切にすべきことを考える問題では正答率が80%を上回っている。

文章資料から内容を読み取り、自分の考えを記述する問題では正答率が50%程度である。

2 結果の分析

(1) 「知識・理解」の力をみる問題の例

< 問題 > ①の5(2) ①の6(1)

① 5(2) 次の.....の中の文は、米づくりで大切にしていることについて、稲作農家の方から明さんが聞いた話です。文の内容と最もかかわりのある米づくりについての工夫を、次のア～エの中から一つ選び、その記号を.....の中
に書きましょう。.....
何より、安全で安心して食べてもらえる米をつくることです。

ア 地区ごとの代表を決めて、用水路を管理する。 イ 田にみぞを作り、水田の水の高さを調整する。
ウ 大型機械を使い、作業時間を短くする。 エ たい肥を使い、化学肥料の量を少なくする。

① 6(1) 上のカードの中で、らく農家の仕事についてまとめているカードをア～エの中から一つ選び、その記号を.....の中に書きましょう。(カードは略)

< 結果 > ①の5(2) 正答率 80.5%(正答...エ)

①の6(1) 正答率 41.3%(正答...イ)

< 分析 >

①の5(2)は、「稲作農家において、安心・安全な米の生産のために、たい肥を利用し、農薬をできる限り減らそうとする農家の人の努力や工夫」についての理解をみる問題である。正答率は80%を上回っている。他にも、②の1「自動車を効率よく安定して生産するための工夫」についての理解をみる問題も、昨年度の類似問題と比較すると、引き続き高い正答率を示している。これは、見学や調査を通して体験的に学ぶ学習が定着し、聞き取りなどで仕組みや願いを丁寧に理解する場と、適切な指導・援助が充実してきた成果であると考えられる。

①の6(1)は、正答率が低かったが、これは我が国の食料生産について、体系的にとらえ理解する活動や場が不足しているためであると考えられる。日本の食料生産にかかわる学習では、稲作とその他に野菜、果物、畜産物、水産物などの生産の中から一つを選択して学習することになっているが、選択して取り上げた事例の他にどのような食料生産が行われているかその概観にふれるなどして、様々な食料生産が国民の食生活を支えていることを十分に理解することができる指導が必要である。

(2) 「観察・資料活用・表現」の力をみる問題の例

<問題> ①の5(1) ①の2

<p>① 5(1)</p> 	<p>明さんは地図2を用意し、家があるA点から稲作農家の方の水田があるB点までの距離を調べました。地図2の中のA点とB点を結んだ実際の距離は、どれくらいでしょう。地図中のしゅくしやくを参考に、正しいものを次のア～エの中から一つ選び、その記号を□の中に書きましょう。</p>	<p>① 2 明さんは、東京の市場に入荷するかぼちゃについて調べ、グラフ1にあらわすことにしました。表2をみて、5月、6月のかぼちゃの国内生産量について、他の月と同じようにグラフ1にかきましよう。(グラフ1、表2は略)</p>
---	--	---

<結果> ①の5(1) 正答率 71.9%(正答...イ)
①の2 正答率 71.8%(正答 略)

<分析>

①の5(1)「ちぢめて書いてある地図ではわからない本当のきよりを、『しゅくしやく』を活用して正しくとらえる力」をみる問題の正答率は、71.9%と決して高いわけではないが、昨年度の類似問題の正答率55.0%と比較すると、大きく伸びていることが分かる。地図の活用については課題として取り上げてきたが、活用の場を意図的に位置付けたり、方位や縮尺について繰り返し指導したりするなど、積極的な指導改善に努めてきた成果であると考えられる。

①の2「表に示された具体的な数値を基に、正確に棒グラフを作成することができる力」をみる問題の正答率は、71.8%と①の5(1)と変わらないが、これは、昨年度の類似問題の正答率78.2%と比較すると、低くなってきたことが分かる。「観察・資料活用・表現」の力については、調べたことを資料やグラフなどによって表現する力が十分に身に付いていないことが課題として上げられる。誤答を分析すると無回答も多いことから、こうした作図作業そのものに抵抗感を感じている児童が多いことも考えられ、グラフ中の目盛り線の数値を正しく読み取ることなど、作図の技能を十分に身に付ける指導が必要である。

(3)「思考・判断」の力をみる問題の例

<問題> ④の4(2) ④の3

<p>④ 4(2) コマーシャルなどの情報を利用してものを買うとき、どんなことを大切にすべきですか。最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、その記号を□の中に書きましょう。</p> <p>ア よいと思った商品は、すぐに買いに行くことが大切だ。</p> <p>イ 自分にとって本当に必要なものかどうか判断することが大切だ。</p> <p>ウ だまされないように、コマーシャルは信じないことが大切だ。</p> <p>エ コマーシャルの時間や回数の多いものを信用することが大切だ。</p>

<p>④ 3 新聞社の本田さんの話の中にある下線部分のように、別のニュースが飛びこんだとき、印刷の直前でも、別のニュースと入れかえるのはなぜですか。次のことばに続くように、下の□の中に書きましょう。</p>

<結果> ④の4(2) 正答率 85.8%(正答...イ)
④の3 正答率 50.6%(正答 略)

<分析>

④の4(2)「コマーシャル等の情報を受ける側の立場として、その情報の必要性を自分自身で判断するなど、大切にすべきことを考える力」をみる問題は、正答率は85%を上回った。メディアの特性を十分に踏まえた上で、活用する際に大切にすべきことが適切に判断できている。これは、児童が個々に自分の考えをもつ際に、情報を比較して判断し、根拠をもって理由を考える指導が充実してきた成果と考えられる。

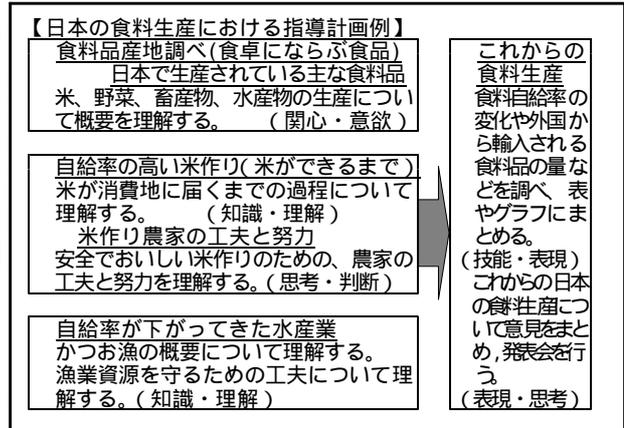
④の3は、「新聞社や放送局など、情報を伝える仕事果たす役割と、そこでの工夫や努力を結び付けて考える力」をみる問題であるが、正答率は低かった。この問題は、文章資料から事実を読み取り、事実間の因果関係を考える力が必要になる。このことから、事象と事象を比較し、関連付け、総合させて事象を分析的にとらえる思考を十分に身に付ける必要がある。また、①の3も含めて、記述式の問題に対する無回答の割合が高かったことから、授業の中で自分の考えを書く時間を十分に確保し、キーワードを用いて表記させるなどの指導の工夫が必要である。

3 分析を踏まえた指導の改善

(1) 指導計画の工夫改善

私たちの生活とのかかわりを明確にした指導計画の改善を！

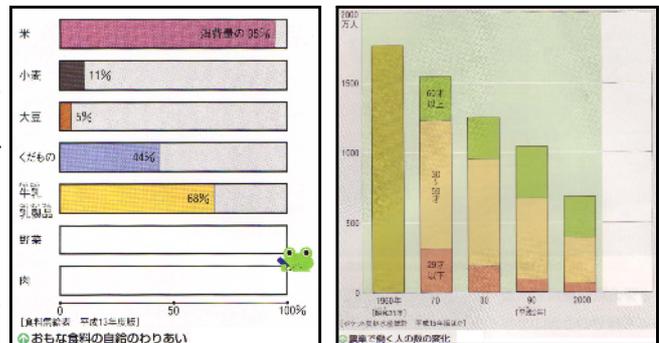
- 右図に示したのは、日本の食料生産における単元指導の流れである。この例では、日本の食料生産の全体像に触れる中で食料自給率に着目することで、単元を通して日本の食料生産の問題点を意識し、私たちの生活とのかかわりを考えながら、具体的な生産の方法や工夫、努力について学ぶという流れで単元全体が構想されている。このように、各単位時間をつなぐ課題を明確にするとともに、私たちの生活とのかかわりを見いだすことができるよう、意図的に仕組んでいく必要がある。
- 日本の工業生産にかかわる単元や情報にかかわる単元等においても、全体像をはっきりとらえ理解した上で個別の事例を学習し、私たちの生活とのつながりを考え理解していくよう指導計画の改善を図ることで、調べ方やまとめ方など他の事例に生かせる学び方を身に付けることができるよう努めたい。



(2) 指導方法の工夫改善

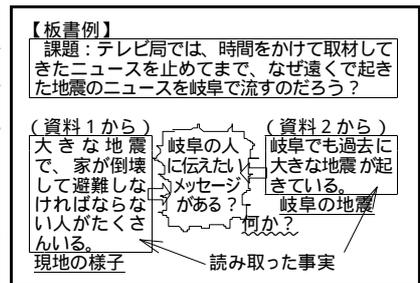
資料作成・表現する力の充実を！

- 教師が用意した資料から、数値や事実を読み取ることはよく行われているが、さらに表現する力を付けるために、児童が自らデータを基に作図を行ったり、資料を作成したりする機会を充実させていきたい。
- 右に示したような、教科書の中にある作図にかかわる作業ページを実態に応じて効果的に活用することで、作図作業の機会を増やすとともに、作図にかかわる技能及び表現力の向上に努めたい。教科書5年上42頁のグラフは、作図の技能とともに、根拠を明確にして考える力も高めることができるよう工夫がなされている。



事実と事実をつなぐ思考を大切に！

- 資料から事実が読み取れても、そこから自分の考えがなかなかもてない児童に対しては、右図の板書例にあるように、資料から見付けた事実を時系列や立場や関係性を整理した上で、何について考えていけばよいかを具体的に示すことが必要である。
- 複数の資料から読み取ったことを、比較・関連付け・総合しながら再構成することにより、考える内容をより明確にする指導を充実させたい。



(3) 学習環境の工夫、学習集団の育成等

空間・生活とのかかわりを広げる工夫を！

- 5年生では、扱う教材が「日本全体」にまで広がるとともに、自分たちの生活とのかかわりもそれまでに比べて間接的になってくる。そこで、教室内に日本地図を常時掲示して、機会を設けて都道府県の位置や方位の確認をしたり、実際の映像と重ねて地形をとらえたりすることで、意図的に児童の空間認識を広げることや、新聞記事等を積極的に活用し、生活とのかかわりを具体的に示すことを大切にしたい。
- 家庭においては、新聞やテレビニュースなどを読んだり見たりする中で、自分の考えや感想をまとめて家の人と話し合うことや、外出先の場所や行き方、およその距離等を地図で確かめたりすることが進められるよう指導していきたい。

指導改善事例は、「岐阜県総合教育センターHP 教科教育等 学力向上P」授業改善(H16~18)及び授業改善推進プラン(H19~)」を参照する。[\(http://www.gifu-net.ed.jp/gec/\)](http://www.gifu-net.ed.jp/gec/)